

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2階)

事業所番号	2770106991		
法人名	特定非営利活動法人NPO堺市グループホームシステム機構		
事業所名	グループホームアローラ		
所在地	大阪府堺市北区長曾根町3065-1		
自己評価作成日	平成31年11月5日	評価結果市町村受理日	平成32年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成31年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設のクリニックとの協力体制が整っており、日々の健康チェック、突発的な気になる事をすぐに相談し診察、処置をしてもらえる。入居期間の永いご利用者様もおられ、看取りも可能な範囲で対応させて頂いております。毎月、ボランティアによる書道、ハンドマッサージ、歌のボランティアを楽しみにしております。また、併設のデイサービスの週1回レクリエーションに参加して、運動やゲームをして沢山の方とふれあがあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、15年前にNPO法人が開設し、併設のクリニックは、法人理事長の医師が立ち上げて経営している。同建物に通所介護施設があり、地域の人々に利用されて信頼を得ている。1階にクリニックがあり、当事業所の利用者や家族からも、安心して入居できると高い評価を得ている。利用者は職員と共にベランダで草花や野菜を植え、その食材を調理に使っている。好きなランチを職員と一緒に作って楽しみ、季節行事やレクリエーションによって豊かな日々を送り、家族から満足の意見が多く、信頼関係も築かれている。地域行事への参加時は、ボランティアや住民の手伝いがあって協力的である。キャリアパス制度によって、職員のスキルアップをサポートする環境が整備されている。職員間のコミュニケーションも良好で、利用者の穏やかな表情や笑顔が見られた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常にスタッフや来客の方が見て頂ける出入り口に理念を提示し、出勤時や職員研修で唱和を行っている。職員研修の中で理念について話し合う時間を設けている。	事業所の理念「敬愛、真心、奉仕」を、各階入り口と会議室に掲示し、会議や研修時に唱和して確認している。日常会話やケアの現場で常に敬語で利用者に話し、その人を敬って接している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員からの情報や広報などから地域行事を把握し、入居者の方に楽しんでいただけるように積極的に参加している。地元中学生の職業体験の受け入れを行って、利用者と交流している。	自治会に加入し、回覧板や民生委員などから情報提供があり、イベントや季節行事に参加して、地域の人々と交流している。デイサービスセンターの利用者と一緒に、ボランティアから手芸を習っている利用者がある。毎年1回夏休みに、中学生の職業体験を受け入れている。小学校の消防訓練時に、数人の利用者と参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加されている地域代表者や民生委員の方々に、グループホームの特性や役割りを伝え、認知症の方々の日常生活や支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの行事の報告や、その時々で相談したい事を報告して、様々な立場の方から意見を頂いている。頂いた意見を反映させ、その報告を行っている。	会議は第2月曜日の14時～15時と定例化している。参加者は家族、地域代表の民生委員と他施設管理者、地域包括支援センター職員、他グループホーム職員、法人理事長と管理者で、入居者の現状報告や職員研修・行事などを報告している。サービス向上に関する意見などは記録し、外部評価後の取り組みも報告・公開する。会議記録のファイルを玄関事務所前に置いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での地域包括支援センターからの情報収集や、入所者様の状況変化があった場合は、随時適切なアドバイス及び支援を受けている。	年2回の堺市全体会議と毎月1回の区のグループホーム連絡会に参加して情報交換している。区の生活援護課とは相談や書類申請の件で、包括支援センターとはボランティアのことや消防訓練のことなど困りごとの相談で、協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は暗証番号で施錠しているが、外に出たい方がいる時はスタッフや家族が付き添って外出している。転倒の可能性がある方にはセンサーマットを利用しているが、家族に説明と同意を得て、使用時には記録に残している。	安全を考慮して玄関は施錠しているが、利用者に寄り添って外気浴や散歩などをして、閉塞感を感じないように心がけている。身体拘束をしないケアの勉強会や研修会を定期的に行い、「気づきの現任教育」を管理者やリーダーが個々に行って、対応や言葉かけなどを指導している。	今以上に、全ての職員が身体拘束による弊害を正しく理解して、身体拘束をしないケアを実践し、また、定期的に委員会を開催して、議事録などを更に整備することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修で虐待について学んで、常に意識している。虐待に繋がらないために、スタッフがストレスをためないように話し合うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修では、成年後見人制度を利用している入居者を例にして、制度の理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約は、時間を掛けて説明している。家族から質問しやすいよう、心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。面会時には入居者の体調や様子を詳しく伝えて、家族の不安を和らげるようにしている。家族から何でも相談して頂けるようにし、信頼関係を深めている。	面会時や電話で家族の意見・要望を聞くようにしているが、「満足している」との意見が多い。家族の要望で、センサーマットを取り入れた例がある。利用者の生活の様子は、毎月の便りと面会時に家族に報告して、意見を聞く機会がある。利用者とは日頃から気軽に話し合い、行きたい所や食事・おやつなど、できることは要望に応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長との面談や職員研修でスタッフからの意見を聴くようにしている。普段の業務時間でも、何でも気軽に話ができるような職場関係になるよう心がけている。	管理者から声かけして職員とコミュニケーションを取り、ケアのことや退院後の対応など、日常的に意見や相談があり、その都度意見交換を行っている。職員の提案で、各階の申し送りに追加して、2階・3階と一緒に朝礼・夕礼を取り入れ、情報共有できるようにした。食事前の誤嚥予防の口腔体操も、職員の意見によって工夫して実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長が併設のクリニックの院長を兼ねており訪問診療時に直接現場の雰囲気把握出来る環境にあり、スタッフとの意思疎通機会も多い。またキャリアパス制度により、スタッフのスキルアップをサポートする環境整備を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験の浅いスタッフに、丁寧に指導を行っている。また、外部の研修に参加出来る様、シフト調整を行っている。働きながら、スキルアップできるよう機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各区で行われているグループホーム会議に参加し、各々のグループホームでの取り組みや成功例、失敗例を報告しあい、勉強会等も行っている。悩みを相談して、解決している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時又は以降随時行われる面接・相談時には、利用者様と家族様の希望を第一に考えケアに活かすことに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の状況を把握し、家族様の希望又はそれに繋がる入所者様の希望を把握することで、家族様との信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所初期段階から日々変化する入所様の希望・要望を随時確認し、ケアの優先順位も考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	少人数・小規模というグループホームの特性を活かし、入所者様との信頼関係を築くことで、職員一人一人が子・孫と感じて頂ける様な家庭的な雰囲気を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の面会時には、入所者様の近況報告やその他様子を伝えている。また遠方等様々な事情で面会が困難な場合は、電話や手紙等で報告・連絡を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	納涼祭やお誕生日会等のイベントでは、家族様だけでなく、家族様を通じて友人等の参加のお願いもしている。また、併設のデイサービスのレクに参加し、馴染みのスタッフや利用者との交流も行っている。	利用者の馴染みの美容室に、知人やボランティアの人と一緒にしている。家族やその友人との馴染みの関係が続くよう支援している。遠方の人に電話をかけた取り次いだり、孫との手紙のやりとり、写真送付や近況報告を支援している。火曜日のデイサービスセンターの棒体操とゲームに、利用者4～5人が参加し、他の人と馴染みになって楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者様個々の性格や個性を大事にし、開かれた場、閉じられた場の空間を使い分けることで、入所者様の穏やかな空間作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員が近所で家族様と会う機会があれば、近況報告を交わす事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションが円滑な入所者様のお話を傾聴し、希望・要望の把握に努める。またコミュニケーションが困難な入所者様は、非言語的なコミュニケーション(表情等)によりその把握に努めている。	利用者の日々のケアの中で、コミュニケーションを取りながらゆっくり会話し、傾聴して気持ちの把握に努めている。挨拶を交わして、好きなこと、得意なことを見つけて希望・意向を把握している。把握困難な場合は、簡単な言葉かけや表情・しぐさから読み取り、また、家族から聞いて把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所者様本人からの情報及び、家族様等の周辺の方々からの生活歴・職業歴等の情報収集を行うことで、入所者本人のこれまでの人生をイメージ出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で入所者様のアセスメントを随時行い、潜在的な能力の発見も心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者による入所者様の現状報告・連絡と職員間の情報共有に努め、ケアプラン作成に活かしている。	介護計画書は短期3ヶ月と長期6ヶ月で更新し、3ヶ月毎のモニタリングを実施している。利用者の状態変化時は、その都度担当者会議を開催して見直している。アセスメント・モニタリングを繰り返し、居室担当者の意見・記録と、本人・家族の要望・意向を計画に反映している。遠方の家族には、電話や書面で利用者の現状を報告し、意向を聞いて計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録内でケアプラン項目のモニタリングを日々行い、項目外でも入所者様の日々わずかな変化も記載するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者様の日々変化する状況に対応出来るよう、併設のデイサービスとの連携も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りやボランティアの方々の協力で行うガーデナーヒーリング等に参加している。また施設内で、定期的なボランティアによる書道教室を開き歌のボランティアによる歌会、ハンドマッサージを催している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の確認を行い、本人・家族様に希望を聞き、以前と同様に適切な医療を受けて頂けるよう努めている。	利用者・家族の同意と納得を得て、法人代表の医師の内科往診を全員が受けている。歯科は、状態に応じて希望者が往診や治療を受けている。眼科・精神科の受診には家族が同行し、受診内容の情報を家族から伝達してもらい、適切な医療・看護を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	外部の訪問看護ステーションとの24時間体制の連携により、入所者様の日々の急変にも対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入所者様の入所中の情報を書面で提供している。また提携クリニックの医師が担当医師と状態確認を行い、適切な時期に退院出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の疾患の重度化が見られる場合、家族様に終末期医療に関する意思確認を行い、希望される場合は医療との密な連携を取り、状況に即応した介護に努めている。	入居時に、契約書に記してある看取りについての事業所の取り組み内容を説明している。利用者の身体状態変化時に、主治医からの説明と「延命措置に関する意思確認書」で、利用者・家族の意向を把握し、「看取り介護計画書」を作成して、方針の統一を図って取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応やその他緊急時の対応に関して、定期的な研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署を交えての訓練や、隔月には入所者様参加の自主消防訓練も行っている。また災害時の避難マニュアルを作成し食糧備蓄等も行っている。	年2回、昼間想定自主防災訓練を実施している。自動火災通報装置・緊急連絡網・備蓄品(アルファ米・水・カレー・カセットコンロ・照明装置)を整備している。2・3階全居室の掃き出し窓の回廊型のベランダやリビング前面の広いテラスは、一時避難に適している。地域に災害時の協力要請を行い、連携体制の強化を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念である敬愛の精神を日々のケアに反映させ、またプライバシー保護等のマニュアルの作成と研修を定期的に行っている。	利用者に年長者として敬意を払い、接遇研修を通して、人格を尊重することは対人ケアの基本である、と職員は認識している。利用者の誇りを損ねない声かけや、入浴・排泄時の羞恥心への配慮とプライバシー確保に留意している。不適切な言動があれば、場所を替えて個別に管理者やリーダーから注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者様の自己決定を尊重したケアに努め、また自己決定出来る環境設定構築に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活を営む上での必要最低限の日課以外は、入所者様本人のペースを尊重したケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でお化粧される方もおられたり、月に1回訪問理美容師によるカット等を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回お楽しみランチやおやつレクを実施し、調理や盛り付け等も適宜行っている。その他テーブル拭き、お盆拭き等も積極的に行なうことで、食事への意欲や楽しみを持って頂けるよう努めている。	昼・夕食は配食業者のチルド食を温め、ごはん・汁物と朝食は事業所で作っている。職員は見守りと食事介助に徹し、管理者が検食を行い、内容の改善へ繋げている。利用者の好みを取り入れて、お楽しみランチとおやつレクリエーションを各々毎月1回実施して楽しんでいる。利用者全員での外食はできていないが、家族と一緒に外食を支援している。季節行事の献立や弁当も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食毎の摂取量の確認と、嚥下状態によって形態変化又はトロミ付けを行っている。また出来る限り個々の入所者様の嗜好を尊重している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の入所者様の能力に応じて声掛け、一部介助、又は全介助による口腔ケアを行っている。また定期的な訪問歯科診療によるケアと職員に対する指導や、週2回のポリドント使用も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な入居者様は、訴えの有無や時間を記録する事でパターンを把握し、トイレで排泄が出来るよう支援を行っている。	利用者は、オムツ・リハビリパンツ・パッド使用と様々だが、排泄記録やパターンを把握して事前の声かけを行い、18人中4人以外、日中はトイレでの自然排泄の支援を行っている。夜間はポータブル使用者(1名)がいるが、オムツ・パッド交換の時間は固定化せず、安眠を重視して、個々の身体状態に沿って対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操で、身体を動かし腸の動きをよくするようにしている。飲み物や食べ物の工夫をし水分補給を行っている。便秘が酷くなる前に医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や生活リズムを把握し、入浴の声掛けを行っている。希望の時間に入浴できるよう配慮している。	曜日・回数・時間帯は、個々の希望や習慣に合わせて入浴支援を行っている。浴槽の湯は一人ずつ交換し、ゆず湯・入浴剤を使用して変化を楽しんでいる。入浴拒否の人には、タイミング・言葉かけの工夫や職員交代などで対応している。シャワー浴時には足浴を一緒に行い、清潔を保っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、食事後、希望により休息をして頂いたり、安心して入眠できる環境を整えるよう配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容がすぐに確認できるよう薬情報をファイルして、薬の変更があれば申し送りで情報の共有をしている。薬の作用は、その都度クリニックの医師に伝えて指示をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の体調等にに合わせて、体操やカラオケ、トランプ、オセロゲーム、壁画作成を共に行う事で気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って、少しの時間でも散歩に行くようにしている。家族様とも話し合い、協力して希望に沿った外出や外食が出来るように支援している。	天候状態や個々の身体状況に応じて、日常的に近隣の公園・寺・神社に出かけている。車で運動公園・緑地公園に花見に出かけている。2・3階夫々のリビングに面している広いテラスには、花のプランターやイスを設置して、日光浴や外気浴ができる環境となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと不安になる方には、少額でも家族様の協力で所持して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯をもっておられる方もいらっしゃる、希望で家族様に電話をかける事も支援している。お孫様からのお手紙が届くと大変喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テラスに季節の花を植えて水やりを手伝って頂いたりしている。ネギの収穫をして下さったら、お味噌汁に使用している。エアコンの風があたらないカーテンの工夫をしている。	各ユニット出入り口の飾り棚に、絵画や民芸調の職員の手作り品が飾られ、和やかな雰囲気となっている。事務所前の一面にテーブルとソファを配置し、居室廊下の中にベンチを設け、個別で寛げるよう整えている。リビング壁面に季節の手作りの貼り絵、習字・行事写真が飾られ、温かく家庭的な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お食事は気の合う方と同席にするように配慮し、カラオケやゲームをする時は席を替えたり楽しく過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の時に家族様と相談して馴染み深い家具や写真を持参してもらい、居心地よい工夫をしている。	居室ドアに表札を掲げ、タンス・小物・家族写真など利用者の馴染みの品物が持ち込まれ、その人らしく今迄の生活が継続されるよう支援している。ベッド・洗面台・クローゼット・収納ワゴンが設置され、居心地良く落ちついて過ごせる居室仕様となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を付け、トイレや浴室も解りやすいよう配慮している。自分の居室と理解しやすい目印をつけておられる方もおられる。		